



大地と自然

黄金色の稲穂が広がる越後平野

新潟市の位置

本市は、サハリン(樺太)から九州に及ぶ日本海に面した、本州のほぼ中央に位置している。東京圏からは約250km、名古屋圏からは約350km、大阪圏からは約500kmの距離に位置し、日本海をはさんだロシアのナホトカまでは約750kmの距離にある。市の中心部は信濃川の河口にあり、その後背には広大な越後平野が広がっている。

本市は海で日本海沿岸各地につながり、信濃川・阿賀野

川水系によって、中越・下越地方(新潟県)の各地や会津地方(福島県)、北信地方(長野県)など、内陸部に結びついている。



北東アジアの中の新潟(『新・新潟市総合計画』より転載)

新潟市の地形

市域は、越後平野のほぼ中央に位置する。古くは、信濃川河口周辺が、越後平野ほぼ唯一の河口であった。

市域の大半は標高が低く、海拔ゼロメートル地帯を含む起伏の少ない平野が占める。市域西部の西蒲区に弥彦・角田山塊が、南部の秋葉区に新津丘陵があり、越後平野をはさむように連なっている。

新潟砂丘

新潟砂丘は、長さ70kmに及ぶ日本有数の大砂丘である。現在の海岸線に連なっている砂丘が最も大きく、赤塚(西区)付近では標高52mに及ぶ。

約7,600年前ごろまでに葛塚(北区)一亀田(江南区)一布目(西蒲区)付近の海岸砂丘ができた。以後、海岸線に並行して10列にも及ぶ砂丘列が形成された。



越後平野の地形(原図「新潟平野の河川と放水路」を改変)



新潟砂丘 手前は佐潟

内陸部の砂丘は、位置する地名をとって、亀田砂丘・石山砂丘などと呼ばれている。

越後平野

越後平野は南北約100km、東西約20kmに及ぶ日本最大級の沖積平野である。信濃川と阿賀野川によって運ばれた土砂が堆積して、約18,000年前から現在に至る間に形成された。

砂丘列の形成に伴い、その内陸側に平野が拡大していったが、平野は福島潟や鳥屋野潟をはじめとする大小さまざまな潟湖と低湿地が広がる不安定な地だった。江戸時代以降の新田開発や放水路の開削、さらに戦後の土地改良事業により、現在の様相になった。

潟湖

平野部には、かつて大小の潟湖が多くあり、漁業やアシ刈り場などに利用されていたが、多くは近世以降の新田開発で姿を消した。市域には現在も福島潟(北区)・鳥屋野潟(中央区)・佐潟(西区)などが残り、貴重な自然遺産となっている。

これらの潟湖は、ヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウといったガン・カモ類の集団飛来地となっている。福島潟や佐潟においては、ヒシ、ハス、ヨシの群落などが認められ、オニバス、ミズアオイ、アサザなどの希少な水生・湿



福島潟

生植物も見られる。佐潟はラムサール条約の登録湿地である。

弥彦・角田山塊

海岸部にそびえる山塊で、北に標高481.7mの角田山、南に634mの弥彦山が連なっている。市域では、弥彦山山頂と峰続きの多宝山たぼうざんが633.8mで一番高い。弥彦山は越後平野のどこからでも見え、海上では航海の目印になった。季節風の影響を受けるため、海側と平野側で植生が異なり、新潟県内の山々に自生する草木のほとんどを観察できる。春先にはオオミスミソウ（雪割草）やカタクリが山を彩る。



弥彦・角田山塊 右が角田山

新津丘陵

標高が約300m以下の起伏の小さな山地・丘陵である。開析かいせき（侵食）の進んだ丘陵で、緩やかな谷が深く入り込んでいる。標高は、秋葉山付近で83m、市城南端の菩提寺山ぼだいじで248.1mとなっている。

古くから里山（たきぎ・山菜・果実・用水などの生活に結びついた山）として親しまれてきた。そのため、伐採後に再生したコナラやスギを中心とした植林地帯が広がる。また、わずかであるが、アカマツ群落、イヌシデとケヤキが混在する自然林が残っている。



新津丘陵 菩提寺山

新潟市の四季

春 3～5月

3月、青空の日が多くなり、積雪が消える。田打ちが始まる。5月、農村部で田植えが始まり、夏を迎える。



春 田植え JA越後中央黒埼支店提供

秋 9～11月

新潟を直撃する台風は少ない。収穫の季節、平野は稲穂で黄金色になる。刈り取った稲がハサ架けにされる。10月下旬、川でサケ漁が始まる。11月に入ると、雷鳴が響き、あられが降る。



秋 サケ漁 阿賀野川

夏 6～8月

田植えが終わり、田の草取りが続く。新潟の梅雨は連日の雨続きではなく、末期に集中豪雨になることが多い。7～8月に各地で夏祭りが行われる。台風によるフェーン現象が、厳しい暑さをもたらす。8月末になると、暑さが和らぐ。



夏 新潟まつり 萬代橋上の民謡流し

冬 12月～2月

鉛色なまりの空の日が続き、雪混じりの北西風が吹く。積雪は、北陸地方の沿岸都市に比べ少ない。潟湖で越冬する白鳥や雁がんが、朝と晩に空を行き交う。2月は時折、青空が現れる。



冬 白鳥とカモ類 佐潟